



旅をあきらめない。

介護・付添い旅行の「しゃらく旅倶楽部」

旅行事例紹介

「行けた」富山への旅行



1 日のほとんどの時間を寝て過ごすお客様は、亡き夫のお墓参りに行きたいと強く願っていた。ただ、頼れる身内もない。旅の実現は難しいとも思っていた。しかしある日、知り合いの弁護士がしゃらく旅倶楽部を紹介。かすかな希望が見えた。

お墓参り。一言で言うと簡単かも知れないけど、その墓地の状況を把握しないといけない。場合によっては道具を使わなくてはならない。その許可も取らなくてはならない。

しゃらくスタッフが富山まで足を運び、お寺の中にあるお墓を下見。コンクリートの段差だらけだった。車いすでその通路を通ることは難しい。

でも、せっかくお墓に来たのに仏前で手を合わせるができなければ、遠路はるばる足を運んだ旅が全て台無しになる。

昔仲のよかったご友人に会いたい。それも今回のお客様の願いの一つ。でも、そのご友人の連絡先がわからないといった状況で始まった旅の企画。



二度富山に足を運び、お墓の参拝の仕方をあれこれ検討したり、ご親戚等にお目にかかって協力を仰いだり。

特に、ご友人探しには骨が折れた。真夏の炎天下の中、Tシャツが汗で重くなるのを感じながら、やっとの思いで探し出した。

旅行当日、待ちきれない様子のお客様。介護タクシーで新大阪駅に向かい、サンダーバードで富山

へ。久しぶりの長旅に、疲れる事もなく「元気・元気」と口癖のようにおっしゃってください。

お墓も問題なくお寺のお勤めも仏前の前で手を合わせることができた。このたった 40 分程度のコーディネートも数十時間かかっている。でも、40 分以上の価値が十分にあった。



夜は、何十年前前にいつも一緒にいたご友人とそのご家族がかけつけてくださった。今までになく最高の笑顔。久しぶりの再会、体は動かなくなったけど、心は当時のまま元気だよ、とおっしゃるお客様。翌日はご実家に帰り、生まれ育った町を歩く。見慣れていたはずの風景も、久しぶりに見ると不思議と新鮮さを感じる。

1 泊 2 日の旅行。いろんな不安があったけど、しっかり計画をしていれば旅行を楽しむことができる。帰りのタクシーの中で、「次は北海道旅行に行きたい。」とお客様。しゃらく旅倶楽部がしっかりコーディネート致します。

【第3回目】宮城県南三陸町でのリフレッシュ旅行の報告

あ～畳の上で寝れるってしあわせだ～。
足伸ばして、風呂さ入れるって、贅沢だ～。
瓦礫だらけの町にはまだ帰りたくね～。

そんな声が聞けた、第3回目のリフレッシュ旅行、「和み旅」。

足に浮腫があり歩行困難なお客様、若い頃の事故により障害を持ったお客様、認知症を患ったお客様が参加された。

誰もが、この度の震災と津波で多くのモノを失った。家に行くと、息子さんの慰霊の写真があったりと、家族を不幸にも亡くしてしまっただけだ。

狭い仮設住宅に肩を寄せ合い生活する。仮



設住宅にいと、何時も口は笑っている。でも目は笑っていない。なぜならば、そこに

いる皆が悲しい想いを背負っているから、無理に笑いながら、泣きたい気持ちを押しえて生活していた。

泣きたいのに泣けない環境。それだけでも辛いのに、身体的な理由により、砂利道の上にある仮設住宅から一歩外に出る事すらままならない日々。溜まるのは、ストレスばかり。

南三陸町から山形に向かう道、仮設や町から離れる喜びをかみしめていた。初日のお風呂の時間、仮設住宅の狭いお風呂では、足を折り曲げて入っても肩まで湯がつからない。で

も、ここでは足を思いっきり伸ばしても大丈夫。夜2回、朝1回と、お風呂に岩盤浴にサウナを楽しむ。

山形名物の芋煮を美味しく美味しくと食べ、海鮮を食べるときは、南三陸町の方が美味しい！と笑いがこぼれる。

90歳を目前にしたおばあちゃん。腰が曲がり長距離を歩く事も難しいけど、よく食べる。出された食事は全部平らげ、同行していた私が残した時、「よく食べないと長生きできね～べ」っと。

障害を持った60代男性の方。久しぶりに温泉に入り、「あ～気持ちいい」と、岩盤浴でしばらく身をくわいてうたた寝していた。

女性の方、何回お風呂に入るんだろう。朝に2回、夕方1回、夜2回。

そして食事とカラオケ、皆がマイクを離さず、人が気持ちよく歌っているのに次に歌う曲を一生懸命に探す。

そんな楽しい日々から約1ヶ月が過ぎた今、お客様から感謝の手紙が届く。

この思い出が、復興へのエネルギーになれば、これ以上の喜びはない。



編集後記

先日、三田で行なわれたイベントのお手伝いをしてきました。どんなイベントかといいますと、ボランティアで集まった兵庫県内の若者たちが手作り体験ショップを開き、その売上の一部を震災の復興支援として東北に持っていくというものでした。イベントの運営スタッフの方が「もう震災支援が減ってきている。こうやって支援は続いているんだというアピールになるだけでも意味がある」とおっしゃっていました。しゃらくの震災支援旅行が終わって早1ヶ月半。「そういうこともやったなあ」になってはいかんなと。今年のメルマガはこれで終わりです。今年も大変お世話になりました。新年は4日より営業開始をします。また来年もよろしく願いいたします。良いお年を。(井上)



Non Profit Organization
特定非営利活動法人

しゃらく

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町 2-2-4

兵庫県知事登録旅行業 6-228号(社)全国旅行業協会 正会員

総合旅行業取扱管理者: 須貝静

しゃらく

検索

<http://www.123kobe.com>



078-735-0163



078-735-0164

●メルマガの登録・解除はこちらからお願いいたします。(http://www.123kobe.com/magazine.html)